

町田市防災備蓄計画（概要）

1. 概要…P3

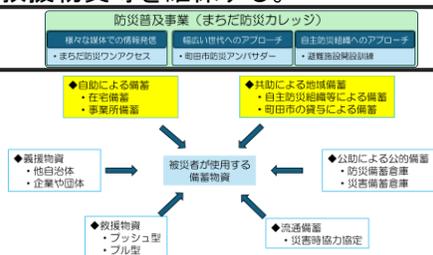
- 東京都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」を受けて改訂した「町田市地域防災計画」における「**備蓄物資の実効性を高めるとともに、課題等に対応するための「備蓄物資」に特化した計画**
- 住民や地域が備えるべき備蓄物資を示すとともに、公的備蓄の計画数量や更新計画及びその他災害時に必要不可欠な備蓄物資について
- 携帯トイレや災害備蓄倉庫等の今後必要となる備蓄や施設について

2. 基本的な考え方…P4

- ①「**自らの生命は自ら守る**」という防災・減災の基本原則に基づき、
- ②「自助」「共助」「公助」のうち、災害時には「**自助**」「**共助**」が最も重要であり、
- ③最低限必要となる物資は、**各家庭等**で備蓄することを基本とする。
- ④**最低3日分、可能な限り1週間以上の食料、飲料等を備蓄**する。
- ⑤上記に加え「公助」として公的備蓄の他、救援物資等を確保する。

3. 防災備蓄計画の構成…P5

- まえがき
- 基本的な考え方
- **防災備蓄を構成する6つの備蓄**
- 被害想定
- 町田市の地域特性
- 在宅備蓄…[自助] ①在宅避難における最低3日分(1週間分)の備蓄…P8
- 地域備蓄…[共助] ②自主防災組織等における自主避難用の備蓄…P10
- 公的備蓄…[公助] ③自助・共助を補完する避難施設等にある備蓄…P12
- 流通備蓄…[公助] ④災害時協力協定に基づく備蓄物資…P23
- 救援物資…[公助] ⑤国や都によるプッシュ型・プル型に基づく物資…P24
- 義援物資…[公助] ⑥企業や団体等による物資…P25



4. 被害想定…P6

- 被害想定
「首都直下地震等による東京都の被害想定」 → **多摩東部直下地震M7.3**
被害が最も大きく、かつ切迫性の高い条件（冬の夕方18時、風速8m/秒）
発災後における最大避難所 **避難者数38,941人**
3食×3日分×1.2倍（在宅避難者分の係数） → **421,000(食)**

5. 公的備蓄(計画数量抜粋)…P12

品目	算定式	計画数量
アルファ化米(炊き出し・個食)	3食×3日分	42万食
ビスケット(補助食)	1食×3日分	12万食
飲料(ペットボトル飲料)	3L×1日分 ※	28万本

※飲料については2日目以降は応急給水等を活用

基本8品目 ①食料、②毛布、③乳幼児用ミルク、④子ども用おむつ、⑤大人用おむつ、⑥携帯トイレ・簡易トイレ、⑦トイレトイレットペーパー、⑧生理用品

6. 課題と今後の方針…P19~21

- ①公的備蓄の整備及び更新
 - ・おむつや生理用品等の更新
 - ・地域内輸送拠点整備事業 → ハンドリフト等
 - ・携帯トイレ(在宅避難者用)整備 → 125万回分
 - **避難所環境整備補助金等を活用**
- ②災害備蓄倉庫整備
 - ・消防器具置場との合築整備
 - **消防防災施設・設備整備に関する財政措置（緊急防災・減災事業債）**
- ③防災普及事業の推進
 - ・防災教育や町田市防災アンバサダーによる周知
 - **在宅避難・在宅備蓄等に関する普及啓発活動**



7. 今後のスケジュール

- 2027.6 町田市地域防災計画(2027年度修正)へ反映